

Q&A 本市の教育環境整備・子どもたちの安心安全・人権施策を問う



三木 浩一 議員
KOICHI MIKI



教育環境の充実と子どもたちの
安心安全対策について

問 小宅小校舎増築の設備充実などはどのように考えているか。また、ICT環境についてはどうか。さらには、若年層や教職員等へのワクチン接種はどのようにに対応するのか。

答 増築校舎の耐用年数は70年を見込んでいる。空調の完備・照明のLED化・トイレの洋式・乾式化をはじめ、多目的トイレ・エレベーター・段差解消などバリアフリー化も合わせて実施していく。既存の北校舎もトイレや段差の解消をする。さらに、教室の広さも2倍にし、ICT機器を使った学習に対応できる電子黒板機能付きプロジェクトターを常設するなど新しい生活様式に対応できるようにする。ICT環境については、学校に高速大容量通信ネットワークの

整備を行い、家庭にも通信環境の整備について理解を求めている。また、セキュリティや使用上ルールなど端末を活用するための情報モラル教育の一層の推進を図る。12歳から15歳のワクチン接種については国の方針を見定めてから方法等を考える。教職員やエッセンシャルワーカーに対しては優先接種することとし、7月中旬以降において、早期の接種完了を目指す。

人権施策について

問 差別落書きへの対処方法やモニタリングの現状はどうか。パートナードシップ制度の導入は考えているのか。障がい者スポーツの啓発支援はどのように進めるのか。

答 定期的にモニタリングを実施しており、これまでに7件の書き込みを削除させた。パートナードシップ制度は、姫路市が本年度中に導入予定だが、本市も導入に向けて検討する。また、障がい者スポーツ指導員の資格取得に対する助成や競技用具の購入と貸出を行う。今後も関係団体と連携を図りながら振興に努める。

Q&A 女性・子どもが抱える諸問題の解決に向けて



肥塚 康子 議員
YASUKO KOEZUKA



生理の貧困対策について

問 経済的要因で生理用品を満足に買えない「生理の貧困」問題が顕在化し社会問題となっている現在、本市としてどのような支援をしていく考えか。

答 防災用備品から市内の小中学校・公共施設へ配布・設置し、フードドライブ事業と連携して支援をしていく。



ヤングケアラーの問題について

問 本来、大人がするべき家事や家族の世話を日常的に行っている子どもに対する本市の取り組みはどうか。

答 過去に事業はないが、必要な支援が行えるよう啓発活動を行い社会的認知度の向上に努めていく。

がん患者への支援について

問 今年度から近隣の市町の多くが医療用ウィッグや人工乳

房・補正具などのピアランス（外見）支援を行っているが、本市においても早い支援が考えられないか。

答 先進自治体の状況を調査し、令和4年度からの事業化を検討している。

問 がん患者への支援として同じ悩みを抱える仲間が共に支え合える自助グループ等の紹介はできないか。

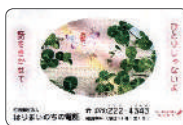
答 がん患者会が西播磨で活動されており、医療機関の患者サロンと併せて紹介していく。

問 「がん教育」で外部講師による体験談等を取り入れられないか。

答 外部講師に関しては、どのような内容が効果的かを考慮し検討していく。

自殺者軽減のための取り組みについて

問 本市が養成しているゲートキーパーに対し「はりまいのちの電話」の相談員養成の受講料補助はできないか。



答 県や近隣市町が連携しての取り組みが望ましいと考える。